

あなっぶ

(高崎商業高校定時制訪問)

定時制高校に学ぶ 若者たち!

澁谷正晴先生の国語授業を通して
様々な環境で学ぶ若者の姿に接しました

定時制高校の今は

昼間働きながら夜、学ぶという生徒も少なくないようですが、夜間定時制高校に通う高校生の実態は昔とだいぶ変わってきました。今回のすなっぶは、高崎商業高校で国語の教師として子どもたち(?)と関わっている澁谷正晴先生の授業を取材して、先生の奮闘ぶりと定時制高校に学ぶ若者の姿をクローズアップします。

～澁谷グループ学習公開授業を取材して～

中間試験を目前に控えた10月4日(金)午後5時、私たち取材班は高崎商業高校に到着しました。体育館から女子バレーボール部員の元気な声が聞こえます。



秋の陽が落ちて教室の照明が点灯されていました。出迎えてくださった澁谷先生に案内されて校舎に入ると教室には5時35分からの1時間目の授業を待つ生徒が楽しそうにおしゃべりをしていました。廊下で携帯電話を操作している生徒も。私たちとすれ違う生徒たちはみな、こんにちは!と声をかけてく

れます。制服がないので思い思いの服装をしていますが違和感はありません。目のくりっとしたエキゾチックな顔立ちの女子生徒が何人かいました。数年前までは荒れていたと聞

いていたけれど、最近は落ち着いてきたのか?と思ったり、高商定時制の取り組みの成果なのか?と思ったり。この日は県内K高校の国語科の先生方3人と、「育ちと学び17号」に登場した荏戸(のぞきど)貴利先生と一緒に授業を見せてもらいました。

1 時間目は 4 年生の現代文 難解と定評のある「山月記」

澁谷先生は、荏戸先生と同様、学びの共同体方式の授業に取り組んでいる。定時制の生徒を相手に、グループ学習の手法で澁谷先生はどう立ち向かうのだろうか、という興味に胸を高鳴らせて教室に。この日の生徒数 8 人。

いきなりグループに

チャイムが鳴り私たちが教室に入ったときには、すでに 8 人の生徒は 2～3 人のグループに机を移動していた。澁谷先生はいつ指示を出したのかわからないうちに生徒たちはもう課題に取り組み、それぞれ教科書を読み始めていた。



人が虎になる話

題材の「山月記」は中国の話。有能な李徴（りちょう）は若くして位の高い役人に任命されたが、官職で終わってしまうのをよしとせず、辞して辺境の地に引っ込み人との交わりを絶つ。そして詩家として死後に名を残そうと、ひたすらに詩作にはげむが、その名は一向に上がらず、絶望した李徴は、再び官職についた。かつての仲間はずで出世しており、下の職にしかつかなかった李徴は、自尊心を傷つけられて、ますます尊大になっていった。そしてついに発狂してわけのわからないことを叫びつつ、どこかへ行ってしまった。数年後、地方を旅していた李徴のかつて

の友人、袁慄（えんさん）は森の中で人の言葉を話す虎に出会った。それが李徴だった。李徴は自分の心境を語った後、袁慄に頼みごとをする、という話。臆病で尊大な羞恥心が李徴を虎に変えたというのだが…。

小さな短冊に課題が書かれて

私たちがじゃまにならないように生徒たちの様子を見て回る。3人並べた机の上には「課題 3 李徴の頼みの内容とその時の袁慄の感想を、教科書 P**～P**までから読み取る。」とプリントされた短冊が 1 枚置いてある。生徒たちはそれを見て真剣に教科書を読んでいるのであるが、お客さんが見ているからなのか。それにしても熱心に読んでいる。

つぶやきで進行する授業

そのうちにぼつぼつとグループの中でつぶやきもれてくる。そう、澁谷先生もそうなのだが、大きな声では話さない。最近耳がすっかり衰えた私の耳には届いてこないくらいでこの教室は進行しているのである。

巡回して様子を見ると、教科書からの言葉を書き出して矢印で結んでいる生徒がいたり、他の生徒にささやくように説明をしている生徒がいたりする。更に廻ってみると、キラキラのつけ爪をした Aさんは教科書を持ってぺらぺらと別のページをめくっていて、勉強から気持ちが離れているのかなと感じた。しかし授業後の研究会で、同じグループの Bくんが Aさんに何やら教えていたと、他の先生が指摘するのを聞くと、授業から全く離脱していたわけではないらしい。いや、それどころか、4年生の彼女が授業に参加し席に座っているそのこと自体が驚くべきことであるのかもしれない。

答え合わせはしない！

澁谷先生は 3 つのグループを廻り、「課題 3

が終わったら声かけてください」とていねいに伝える。課題の3に対する答えをグループで話し合い、答えが出たところで、課題の4の短冊を渡すことにしているのである。ゆっくりたっぷり時間をかけて話し合いが静かに進行する。と、チャイムが鳴り時間となる。「では、ここまでが試験範囲です。」授業が静かに終わりました。

・・・おや？課題を出しておいて解答はない？しかもこれで試験？授業後の研究会で澁谷先生に確かめました。すると「きちんとグループで話し合っていますから、答えは書けるんですよ！」「ただ、もちろん言葉の意味が違くとダメだよ、というような採点上のきまりは生徒が納得いくように話し合っただけで合意をつくっている」とのことでした。

2時間目は1年生の古文「徒然草51段 亀山殿の御池に」

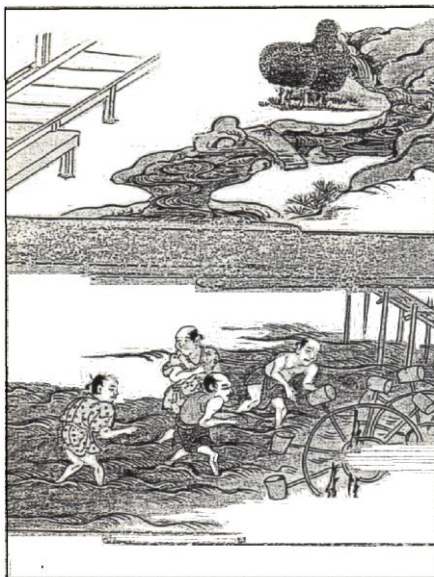
リーダーの存在が大きい

2時間目は1年の国語総合「徒然草」。参加したK高校の国語教師が「パッと授業が始まるのが信じられない」と感想を述べていたが、1時間目と同様に静かに進行してゆく。「前置きは時間の無駄」というわけだ。4年生の授業との違いは、3人6グループの18人と人数が多めであることと4年生のときより雰囲気やや硬い感じがすることか。そのような中で若干年長かなと思われるSくんが彼の所属するグループをリードする声がよく聞こえる。

このことについて、授業研究会の中で触れられた。やはりK高校の先生が「澁谷クラスの生徒は力の差があるのでリーダーシップを取る生徒が現れ、教えあうことができるが、うちの学校の生徒は力の差があまりないのでそれができない」と高校における生徒構成上の本質的な悩みについて発言があった。

認め合う関係を作り出すのが教師の仕事！

また、「男女で話ができなくて、男同士女同士になってしまう。どしたら良いのだろう」という悩みも紹介された。このことは男女の



水車（奈良絵本「つれづれ草」江戸時代初期）

関係だけでなく、多くの生徒たちが抱えている課題であるが、本誌前号で取材した荏戸先生からは「生徒同士に認め合う関係があるかないかで大きく違う」という指摘があった。教師の仕事は生徒の聞き役

となって生徒同士をつなぐとともに、認め合う関係を生徒同士の中に作り出してゆくことなのだと感じた。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇澁谷先生の授業を見て感じたこと◇◇◇◇◇◇◇◇◇

澁谷授業の成立の要件

- ◆押し付け、差別をしない教師の対応
- ◆多人数による圧力感がない少教授業
- ◆強圧的な大声でない落ち着いた授業
- ◆進度優先でない充分時間をかけた授業
- ◆単純すぎず複雑過ぎない良く練られた発問（課題）と短冊形式の工夫

澁谷授業が投げかけるもの

- ◆学習のプロセス(思考の手順)を提供する授業構成（授業デザイン）
- ◆より良質な授業成立のための最適人数
- ◆学力多様性の持つ可能性（学びあい）
- ◆試験の本質的な意味と在り方

◆生徒が安心して学習に集中できる授業

こう書き出してみると、高商定時制の生徒たちが落ち着いているのは、澁谷先生の授業のあり方が決して無縁ではないと感じるので、みなさんいかがでしょうか。

取材班の長谷川陽子さんは「初めて定時制高校を訪れて、制服がなく先生が説明するだけではなく、生徒同士で話し合う授業が新鮮で羨ましく思いました」と、自らの体験を振り返りながら語りました。《文責：坂田尚之》

澁谷先生に定時制高校での教師生活について書いていただきました **「大きな満足と誇りを感じています」**

高崎商業高校の定時制で働きはじめて4年と半年が経ちました。私は今の職場で働けることに、大きな満足と誇りを感じています。それは、生徒一人ひとりが大切にされ、在籍する4年の間に生徒が成長してくれることを実感できるからです。

本校に入学する生徒は大きく二つのタイプに分かれます。一つは中学時代から非行グループ等に関わり、全日制高校への進学を希望したけれども学力やその他の問題で、定時制に来ざるを得なかったもの。もう一つは、いじめその他の理由により、不登校になり、全日制には行けず、定時制を選んだもの。この中には積極的に定時制がいいと考えて入ってきた生徒もいます。

本校ではどちらのタイプの生徒も同じように大切にします。その結果、中学時代にほとんど学校に行けなかった生徒が、ほぼ皆勤という状態で卒業していくことも珍しくありません。ただ、残念ながら、中途退学してしまう者も少なくありません。辞めてしまう者の多くは第1のタイプで、学校生活を続けるためにマイナスとなる生活習慣や仲間を絶ちきることができず、事件を起こして学校にいらなくなったり、出席日数不足でやめたりするのです。けれども、そのような生徒たちの中にも、自分の後輩には「高商の定

時制は楽しいよ」などと話す者がいて、そう言われた後輩たちがまた本校に入学して来たりするので、ちょっと救われた気持ちになります。

私のクラスにはこんな生徒もいました。私が受け持つてすぐの頃、私の指導が気に入らないと物に当たり散らし、「こんな学校やめてやる」とまず毒づいてみせたのです。その時は周りの先生方になだめられてなんとか学校を続けたのですが、その後もとにかく反抗的な態度を取り続け、一方では隠れて2輪の免許を取ってしまってもいました。けれども4年生になって、何を思ったか、そのことを自ら申し出て特別指導を受けたのです。その時彼は「先生には嘘はつけない」と言い、さらにメールで「照れくさくて直接は言えないけど、先生が担任でよかった」というメッセージをくれました。

これは、担任である私の指導云々ではなく、彼が学校の内外で様々な経験をする中で内なる良心を育て、一方では担任ときちんとした人間関係を築くことは価値あることだと思えるように成長したからなのだと思います。

定時制の生徒は様々です。典型的な2つのタイプ以外にも、少年院あがりの生徒もいますし、人を使い、私たちよりもずっと稼いでいる生徒もいます。それでも、この高商の定時制で学ぶことに意義を見いだして、学校に通ってきさせているのです。



先日私の授業を見ていただきましたが、ほとんどの生徒は、中学3年間の国語の評定平均が「1」です。中に2、3人、「3」をとったことのある生徒がいるくらいです。「個人情報をこんなところに書いてけしからん」という方もおられるかもしれません。でも私に言わせれば、そんな過去のことはどうでもいいのです。評定平均「1」というのは彼／彼女らの過去の暫定的な国語の評価であって、人間的な価値を表すものでもありませんし、国語の力も、高校の4年間で着実に伸ばしていくからです。



私の授業（国語）は、佐藤学さんの提唱する「協同的な学習」の考え方を参考に、対話（生徒同士、教師と生徒）を多く取り入れたスタイルをとっています。3、4人のグループで課題を解くことも多いです。中学時代にほとんど教室に行けず（行かず）、授業をまともに受けたことのない生徒たちが大半で、まずコミュニケーションをとることがうまくいきません。また、これまでの学習の不足から絶対的な知識量が足りていません。だから従来のスタイルの授業で知識をつけさせた方がよいという考え方もできます。けれどもこれからは、知識の量を増やすことで生徒たちの未来が開けるといふ時代でもないように思う

のです。それよりも、自分の頭で考え、コミュニケーションがとれるようになることの方が重要に思われます。そして、実際にやってみると、授業によって出来、不出来はありますが、生徒たちは「協同学習」的な授業スタイルにもきちんと対応できますし、それまでうまくできなかったことができるようになっていくのです。

国語の力だけではありません。生徒たちは、様々な学校行事や教師とのやり取り、生徒同士のやり取りを通して、学力だけでなく、総合的な人間としての力も

つけていきます。事実、就職に際しては、全日制の生徒と一緒に採用試験を受けに行き、全日制の生徒が落ち、うちの生徒が受かるといふ事例も一再ならずあります。今年は、高崎以外の地域に住んでいるにもかかわらず、JA 高崎に内定した生徒もいます。そして卒業した生徒の多くはきちんと仕事を続け、自分の稼いだお金で車を買って、誇らしげに見せに来たりもします。

これが現在の高商定時制の姿です。最初にも書きましたが、私はここで働けることに満足と誇りを感じますし、大きな可能性も感じています。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇心打たれる生活体験作文◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

生活体験作文は、発表会のために一人一人の生徒が自分のこれまでの生活、現在の状況などを文章にします。校内大会で高い評価を受けると、地区大会、県大会へと進みます。評価はどうであれ、生徒がこれまでの自分の生活を真正面から見つめる作業はとても大きな意味があります。まるで書くことで何か大切なことを学び、過去に捉われずに前に進んで行く力を身に着けて行くかのように思えます。お借りした作文全文を紹介します。

『今までを振り返って』

私は高校で様々な人達に出会えた。優しい人や面白い人、相談に乗ってくれたり、とても頼れる人が居たり。

私は中学二年の時にある事件が起こり、

それ以来人を信じる事が出来ずにいた。ある日、同じクラスの人物が隠されたと言ふ事件があった。そして全員で探す事になった。私は隠されていた物を一番に見つけ

